

教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

和歌山市立藤戸台小学校
教諭 吉水英章

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は、教育に関する専門的・技術的事項について研修し、教職員としての資質能力を高めるとともに、今日的教育課題解決のための研修・研究を行い、その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とし、実施されている。言うまでもなく、教員は絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり、深く考えたりして、事実や真理を明らかにすること」、修養とは「知識を高め品性を磨き、自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第2版』2012、小学館)とある。

今回、長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と、教員としての資質を広く高める修養の機会(下図参照)」として捉え、1年間研鑽を積むこととなった。研修期間中は、センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講、所属校における学校課題解決のための校内研修への参加等をとおして、幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

これらの研修を通して、学校の教育活動の本質を捉える視点が養われ、自身の考え方の幅が広がったことを感じている。授業力向上トレーニングでは、これまで何気なく組み立てていた自身の授業構想を理論的に見直すことができ、特に算数科と社会科において、実践に生かせる知見を得ることができた。また、研修で学んだ授業づくりの視点を具体化した授業実践を研修員同士で構想したり、所属校にどう還元するかを考えたりするなど、情報のアウトプットを行うことを通して、授業構想力の定着を図ることができた。これらの活動を通して自身が感じた「新しいことを知る楽しさ」や「多様な見方をもつ相手との意見交流のよさ」を、子供たちにも体験させられるような授業を目指していきたい。

専門研修講座等受講では、教育の各分野における専門家から最新の情報を入手し、これからの社会に求められる教育について理解を深めることができた。次期学習指導要領改訂のキーワードとなる「主体的・対話的で深い学び」はもちろん、各学校における学校教育目標を見据えた教育課程の編成についても考えさせられることが多かった。自身の研究については、教職員や児童が協働的に学級をつくっていく手立てについて考えてきたため、学級経営と学校経営に共通する要素である、「人と人とのつながり」をつくる重要性に気付くことができた。所属校では現在、教科部会が中心となって授業研究を進めている。今後は6年間で付きたい力として学年間での学習内容の系統性をこれまで以上に意識し、教科間のつながりを見据えることで、一つの目標に向かって取り組む学校の姿を実現していきたいと考える。

なお、自己の専門性を向上させるために、年間を通して行った研究については、別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第1段階 基礎期	第2段階 向上期	第3段階 探究期	第4段階 充実期	第5段階 修了期
月	4月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～1月	2月～3月
研究	・研究テーマ、方向性を設定し、第1回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画、資料等の作成、模擬の授業実施	・授業・研修研究計画を立て、第2回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析 ・和歌山教育実践研究大会で発表	・研究報告書、資料の作成

所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」

- 修
養
- 「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング
 - 専門性の向上を目指す専門研修講座等受講
 - 初任者研修、10年経験者研修等聴講
 - 学びの丘指導主事等による研修員研修

図 研修の概要